

第10回

東大和市社会教育委員会議 会議録

令和7年2月18日（火）

令和6年度第10回東大和市社会教育委員会議のまとめ

- 1 日 時： 令和7年2月18日（火）午前10時～11時30分
- 2 場 所： 第7・8会議室
- 3 出席委員： 池田陽子、外池武嗣、才郷正次、杉本誠一、森脇千春
橋本智保子、半田道夫（7人）
欠席委員： 和田孝、鈴木進也（2人）
- 4 事務局： 岩野生涯学習課長、小泉生涯学習係長、荻沢主事、岩渕主事
（4人）
- 5 内 容： 議題（1）研究テーマの検討・決定
議題（2）その他
- 6 公開・非公開： 公開
- 7 傍聴者数： 1人
- 8 配布資料：資料 令和6年から7年度提言研究の主題設定に向けて
東大和市教育委員会だより第99号

9 議事内容

(1) 研究テーマの検討・決定

研究テーマについて以下のとおり議論した。

①小さな防災・防犯・事故

・委員

小さな災害という表現は誤解を招いてしまう。表現を変更したほうが良い。

・委員

「身の回りの」はどうか。

・委員

「身近な」はどうか。小規模だと少しおかしい。火事の犠牲者について、全国での傾向と、北多摩支部は実際どうなのか。東大和市内で活動している団体や自治会を講師で呼べないか。

・委員

講習会等は、自治会によっては積極的にやられているところもある。

②連絡網等

・委員

隣近所で、全然関心がないところもあると思う。その人たちとラインで繋がるのは難しいし、何かしらの強制がかからないと絶対やらないが、強制はできない。そういうところで事故が起きた場合どうなるのか。住んでいる地域のことを全く知らない人たちは結構な数いると思う。

・委員

ラインは難しいがメールは比較的にハードルが低い。自治会等では、なんかあったら連絡してくださいとメールアドレスを手紙にしていることが。アパートは、入れ替わりが頻繁のため、コミュニティの形勢はなかなか難しい。

③自治会

・委員

自治会がないところは、あまり連携が取れていないのが現状だと思う。連携を取って防災などをみんなでやらなければという想いはあっても、行き詰っている。イベントなどに参加しない人とどうコミュニケーションを取るかが難しい。ただし、自分の興味がある物を通じてのコミュニティは、活かしていけると思う。

・委員

引っ越してきた方など、自治会に入りたいくても入れない方や、イベントに行きたいけど、なかなか顔を出しにくい方もいると思う。

・委員

自治会がなくなった地域では、より地域活動に参加できない状況に

になってしまう。

- ・ 委員

自治会に入っていなくても、ゴミ出しや防犯、防災などのサービスは受けたいという気持ちはみんな強いと思う。

- ・ 委員

あくまで自治会ではなく、防災防犯のための連絡網として、実施すれば良いのではないか。回覧版を回すだけの連絡網なら上手くいくと思う。それが地域の関係構築の第一歩になると思う。

- ・ 委員

個々の連絡網を作成するのは、個人情報の問題もあり、大変。新たにネットワークを作成するのではなく、自治会など既存のグループを活用するのが良いと思う。

- ・ 委員

東大和市の公式ラインを活用するのはどうか。公式ラインから、自分の地域の情報を得ることができたら良いと思う。各自治会の人情報発信ができるシステムがあればいい。

- ・ 委員

地区ごとのライングループがあって、そこで井戸端会議のようなものができても良いと思う。ただし、誰でも入れるとなると、荒れてしまっって収集がつかなくなる危険もある。

- ・ 事務局

事務局から提案で、ここまでの議論の中でも自治会がない地域をどう対応するかというのは、必ず今後提言をまとめる上で課題として出てくると思う。ほかの団体との連携も考えなければならないと思うので、団体の方から直接お話を聞く機会を設けるのはどうか。

- ・ 委員

良いと思う。防災に積極的に取り組んでいる団体の方など、専門知識を持った人にいろいろ話を聞いてみたい。

- ・ 委員

外国の方の話も聞いてみたい。外国の方だけのコミュニティなどがあるのか知りたい。

- ・ 事務局

早い段階で研修会の方が提供できるように調整する。

(2) その他

事務局から2点事務連絡を行った。

- ・ 事務局

第11回社会教育委員会議の日程の変更と多摩湖駅伝大会について説明した。

・副議長

本日の会議のまとめを行った。

・議長

第10回東大和市社会教育委員会議を終了する。次回は3月19日午前10時から中央公民館301学習室で開催である。